

1 呉市の特性

(1) 地理的特性

○ 海と山に囲まれた瀬戸内特有の温暖な気候

呉市は、瀬戸内海に面する陸地部と、倉橋島や安芸灘諸島などの島しょ部で構成される気候温和で自然環境に恵まれた都市です。

市域全体を通じて平たん地が少なく、野呂山、灰ヶ峰など、標高300mから800m前後の山が連なり、地域が分断された地形となっており、また、島しょ部を含めた海岸線延長は約300kmに及び、西日本有数の多島美^びを有する風光明媚な地勢を有しています。

○ 都市と自然の近接性

地方中枢拠点都市である広島市や広島空港との近接性が高く、豊富な自然環境により身近な海山レジャーが楽しめることから、都市と自然の近接ライフの魅力を有しています。

○ 土砂災害が起こりやすい地質

市域のほとんどが崩れやすい花崗岩系の地質で、地形も急峻な土地が多いことから土砂災害危険箇所も多く、これまで幾度となく災害に見舞われてきました。

【灰ヶ峰から眺める呉湾】



【海水浴客で賑わうロマンチックビーチかるが】



【桜が彩る火山】



(2) 社会的・経済的特性

○ 戦艦大和を建造した世界有数の海軍工廠とともに発展したまち（平和産業港湾都市）

明治22年の呉鎮守府開庁を契機に本格的な市街地が形成され、最盛期の昭和18年には人口が40万人を超え、日本一であり世界でも有数の海軍工廠を擁するまちとなりました。当時の海軍が築いた水道施設や港湾施設、病院などの都市基盤は、市民生活に欠かせないものとして現在も活用されています。

○ トップシェアの製造業と最先端技術が集積する「ものづくり」のまち

呉市は、戦後、自動車・航空機部品、半導体・発電用設備、造船、鉄鋼、木材、パルプなどを生産する企業が立地し、独自技術や全国的、世界的に高いシェアを持つ企業を有する「ものづくり」のまちとなり、広島県の主要都市のひとつとして発展してきました。

○ 観光が基幹産業のひとつに

平成17年に開館した大和ミュージアムや、市内全域にある個性的で魅力あふれる観光資源を活用し、自然豊かな瀬戸内やロマンあふれる歴史・文化など、地域の特色を生かした観光産業が地域経済を支えています。

○ 特色ある多くの地域資源を有するまち（国内有数の生産量を誇る農水産業）

平成15年から平成17年にかけての近隣8町との合併により、美しい自然や歴史、文化、地域産業など、特色ある多くの地域資源を有することとなりました。

農業分野では、島しょ部での柑橘等の園芸農業と内陸部での水田農業が営まれ、漁業分野では、国内有数の生産量を誇るカキ養殖や、シラス漁が盛んに営まれています。

【海軍工廠の技を受け継ぐ造船技術】



【大和ミュージアム】



【伝清盛塚と音戸大橋】



【カキ養殖の抑制棚】



2 呉市を取り巻く環境

(1) 人口の動向

○ 人口減少と少子高齢化の進展，生産年齢人口の減少

全国的に人口減少，少子高齢化が進んでおり，若年層の東京一極集中が拡大する傾向にあります。呉市も同様に，人口減少，少子高齢化が進んでいます。

(2) 経済の動向

○ 経済のグローバル化の進展

貿易や投資の拡大を背景として，産業構造の変化やアジア諸国の急速な経済成長により，国境を越えた資本や労働力の移動が活発化しており，経済のグローバル化が進展しています。

○ 持続可能な観光地域づくりの推進

地域の成長戦略の柱，活性化の切り札である観光について，持続可能なあり方で，観光産業の「稼げる」産業への変革を進めつつ，持続可能な観光地域づくりやインバウンド誘客，国内交流拡大に戦略的に取り組むことが求められています。

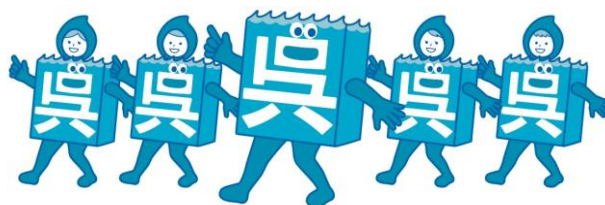
また，観光資源としての既存ストックの利活用や，観光客の移動円滑化等にも資する社会資本の整備を通じて，地域の観光振興への貢献が期待されています。

○ デジタル技術の急速な進展と働き方改革

I o TやA I（人工知能）などのデジタル技術の活用により，社会に存在する課題を克服することが可能となる新たな時代，Society5.0へ向けて，社会全体の発展が求められています。

また，建設業界では，他産業と比べて高齢化が進行しており，人材確保や育成を進めていくことが求められています。

デジタル技術の活用による生産性向上や働き方改革等への取組が期待されています。



用語解説
グローバル化…社会的あるいは経済的な関連が，国家や地域などの境界を越えて，世界規模に拡大して様々な変化を引き起こす現象
インバウンド…外から入ってくる旅行、一般的に訪日外国人旅行を指す
I o T…Internet of Things（モノのインターネット）の略称
Society5.0…デジタル革新と多様な人々の創造・想像力の融合によって，社会の課題を解決し，価値を創造する社会

(3) 災害等への備え

○ 災害に強いまちづくりの推進

近年、全国各地で、台風や集中豪雨などによる甚大な被害が発生しています。

呉市では、平成30年7月豪雨において、市内で182件の土砂災害が発生し、近年まれにみる大きな被害を受け、各地で道路や鉄道など交通機能が寸断されるなど、市民の生活や経済活動に大きな影響を及ぼしました。

また、今後は、大規模地震の発生が危惧されており、自然災害への懸念が高まっていることから、災害に強いまちづくりを推進することが求められています。

(4) 行財政改革の取組

○ 厳しい財政状況における社会資本の老朽化に伴う費用の増大

人口減少・少子高齢化の進展や行政ニーズの多様化を始め、呉市を取り巻く社会情勢は今後も大きく変化するとともに、社会保障関係費や公共施設の老朽化に伴う維持管理経費の増加などの影響により、引き続き、厳しい財政状況が続くことが見込まれます。

そうした中、道路、公園等の社会資本についても、その多くが高度経済成長期に建設され、耐用年数を迎つつあるため、老朽化に伴う維持管理・更新に要する費用の増大が懸念されています。

そのため、限られた財源の中で、計画的に社会資本の整備を進めていく必要があります。

【平成30年7月豪雨で被災した
天応地区における砂防えん堤の整備】



【平成30年7月豪雨で被災した
安浦町中畑地区における砂防えん堤の整備】



3 社会資本の現状

(1) これまでの取組により形成された「強み」

これまでの取組により築き上げた社会資本ストックは、市民の安全で快適な生活の維持や様々な社会経済活動を支える「強み」となっています。

- ◆ 歴史的な背景により、充実した社会資本が早期に整備されたまち
- ◆ 広島呉道路（クリアライン）による地方中枢拠点都市である広島市との近接性
- ◆ 東広島・呉自動車道の全線開通による広島空港との近接性
- ◆ 放射環状型道路網の整備による近隣都市との強い連携
- ◆ 代替性・多重性が一定程度確保された幹線道路ネットワーク
- ◆ 河川改修の進展により、水辺空間に集積した都市機能
- ◆ 過去の土砂災害を教訓とした全国トップレベルの土砂災害対策の整備率
- ◆ 多島美の景観と約300 kmの長い海岸線を有するまち
- ◆ 風光明媚でブルーラインが整備されたサイクリングロードネットワーク（とびしま海道、かきしま海道、さざなみ海道）
- ◆ 国の重要文化財や日本遺産などに指定され、歴史的価値のある土木施設の存在
- ◆ 平成30年7月豪雨発災直後から災害対応に懸命に取り組んだ建設業の存在
- ◆ 民間からの投資を呼び込むことが可能な市有財産

【平和産業港湾都市として発展した呉市】



【広島呉道路（クリアライン）】



【東広島・呉自動車道】



【とびしま海道サイクリングロード】



(2) 今後も改善・克服すべき「弱み」

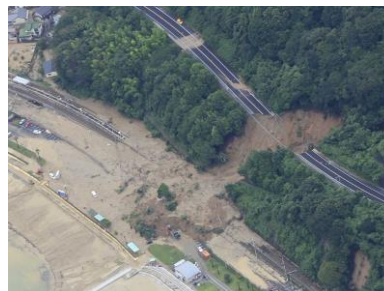
激化する自然災害等に対する備えや、社会資本の老朽化対策、重要物流道路等における橋りよの耐震補強など、さらに整備が必要な部分については、今後も改善・克服すべき「弱み」となっています。

- ◆ 早熟都市であり、全国平均を上回る社会資本施設の老朽化率
- ◆ 高速道路網が暫定2車線整備であり、災害に対する乏しい復元・回復力
- ◆ 定時性や速達性の向上が課題となっている空港アクセス
- ◆ 現在の交通需要に対応できていない幹線道路
- ◆ 主要幹線道路が脆弱で、大雨による事前交通規制で分断されるまち
- ◆ 気候変動のスピードに対応しきれていない河川
- ◆ 市内を占める高い土砂災害（特別）警戒区域の面積割合
- ◆ 巨大地震、気候変動による沿岸被害のリスクの増大
- ◆ ハード・ソフト両面において利用環境の更なる向上が求められているサイクリングロード
- ◆ 魅力や価値を十分に活用・発信できていない社会インフラ
- ◆ 建設業の担い手不足等による公共工事の品質確保と災害対応能力の低下への懸念
- ◆ 民間の持つノウハウ・スキルを十分に生かしきれていない公共事業

【建設後 50 年以上が経過し老朽化により
鉄骨が露出した「中田橋」（新開・小塚線）】



【平成 30 年 7 月豪雨で被災した
広島呉道路（クリアライン）】



【平成 30 年 7 月豪雨で浸水した安浦町中心部】



【国指定重要文化財の本庄水源地えん堤】



II 呉市の現状と今後の土木行政に求められること

4 今後の土木行政に求められること

- 「第5次呉市長期総合計画」では、将来都市像に『誰もが住み続けたい、行ってみたい、人を惹きつけるまち「くれ」～イキイキと働き、豊かに安心して暮らし、ワクワク生きる～』を掲げています。
- その将来都市像を実現するためには、SDGsの理念に沿いながら、社会資本の「強み」は最大限に活用し、「弱み」は改善・克服していく取組が必要となります。
- 社会資本の整備は、未来への投資であり、質の高い社会資本ストックを将来世代に確実に引き継いでいく必要があります。
- 「第5次呉市長期総合計画」が掲げる将来都市像を実現させるために今後の土木行政に求められることは、次のとおりです。

今後の土木行政に求められること

- ◆ 地域経済と安全で豊かな暮らしを支え続けるための社会資本の戦略的な維持管理の推進
- ◆ スtock効果・速効性を重視した計画的な社会資本整備の推進
- ◆ 災害に屈しない国土づくりのための防災・減災，国土強靱化の推進
- ◆ 気候変動による水災害のリスクに備え，あらゆる関係者により流域全体で行う「流域治水」の推進
- ◆ 社会経済活動を支え，国土強靱化のための高速道路ネットワークの充実・強化
- ◆ 交流人口の拡大や観光客の移動円滑化等に資する環境整備
- ◆ 社会資本の整備・利活用を通じた観光振興
- ◆ 安全で魅力あふれる都市構造を構築するコンパクト・プラス・ネットワークの推進
- ◆ 持続可能で魅力あふれる社会環境を形成するためのグリーンインフラの推進
- ◆ 第三次・担い手3法を踏まえた建設業の担い手の育成・確保
- ◆ 生産性向上と労働力不足の解消等に向けたインフラDXの推進
- ◆ 地方創生に寄与する公共空間の整備
- ◆ 民間の資金・ノウハウを活用した多様なPPP／PFIの推進 など

用語解説 SDGs…2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までの国際目標
コンパクト・プラス・ネットワーク…医療・福祉・商業等の生活機能を確保しながら，地域公共交通と連携してコンパクトなまちづくりを進める取組
グリーンインフラ…自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方
担い手3法…品確法（公共工事の品質確保の促進に関する法律），建設業法，入契法（公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律）
インフラDX…デジタル技術を活用して，社会資本や公共サービスなどを変革することで，インフラへの国民理解の促進と安全・安心で豊かな生活を実現する取組
PPP／PFI…公共施設等の建設，維持管理，運営等を民間の資金，経営能力及び技術力を活用して行う手法